

# 熊本市長選挙～市政の重大な課題が問われる選挙

(民間企業が進める桜町再開発)

# 最大の争点は、MICE施設300億円・再開発補助金107億円の是非

11月2日公示、11月16日投票の熊本市長選挙が行われています。

熊本市のトップを決める今回の選挙では、一体何が問われているのでしょうか？

市議団が行った市民アンケートでは、生活が苦しくなったと答えた方が8割に上りました。福祉、高齢者の安

心な生活、子育て支援、教育などの充実をどのように図っていくのか？また、民間企業が進める桜町再開発への407億円の税金投入する是非などが問われる選挙になります。

各候補者の政策などもそろったなか、市長選挙で問われる課題などを検証します。

## いまさらMICE整備はストップできないのでは？

## そんなことはありません！堺市では市長がかわりストップ

MICE計画については「いまさらストップすることはできないのでは？」との疑問も出されています。

しかし、そんなことはありません。現に、堺市では再開発の「都市計画決定」まで手続きが進んでいましたが、市長が代わり、再開発事業への参加を中止

しました。

高齢者福祉・子ども医療費の拡充など、市民サービスの充実にむけた財源を確保するためにも、市政史上最大のムダづかいであるMICE整備をストップすることが必要です。

## MICE整備の是非は、住民サービスの財源に関わる重大な問題

桜町再開発において、市が300億円の税金を投じるMICE施設(3000人規模のホール、国際会議場、展示場などを併せ持つ施設)整備の是非、民間企業による再開発への107億円の補助金の支出の是非が、住民サービスの財源論の観点からも最大の争点です。

各候補者の主張をみてみますと、大西候補「市内に2千人規模のホールが必要。再開発全体のスケジュール内で設計を精査する」、下川候補「正式な手続きが踏まれており、首

長一人でノーと判断すれば、議会の否定、軽視。インターネットなどで市民の意思を把握する」とMICE施設に対しては基本的に容認の立場です。

石原候補は「MICE施設を現在の計画地に建設することは反対。(市長選は)MICE施設の是非を争点に立候補しており市民投票に近い。当選すれば考え直したいという市民の声」と桜町再開発でのMICE整備には反対の主張をしています。【地元紙より】

(控室から)  
熊本市のまちづくりを考える  
なすまどか

先日、まちづくりの学習会に参加しました。現在、中心市街地のにぎわいを創出するという名目で、熊本市は花畑広場やMICE施設整備を進めようとしています。

しかし、学習会で講師を務めた鳥飼香代子氏は、「本来の広場は、文化の交流であったり、政治的な集会であったり、市民の歴史や魂がこめられたもの。スペースだけを確保した広場は、ムダなハコモノである」と、現在の花畑広場構想を厳しく指摘。また、MICE施設についても、「市が想定する利用は見込めず、莫大な税金投入は、財政的に市民の貧困を招くことにつながる」など課題を指摘しました。ヨーロッパなどのまちづくりの例なども示しながら行われた学習会を通じて、「まちのにぎわいはハコモノではつけない」ということに確信を持ちました。

人のにぎわいを生み出す源泉は、文化であり、市民の生活の営みにあります。産文会館の解体、県民百貨店の撤退を招いた桜町再開発、駐輪場の有料化などなど、市民を市街地から締め出すまちづくりは、本来のまちづくりの逆行します。「文化」をキーワードに魅力あるまちづくりのあり方を、多くの市民の方々と追求しつづけていきたいと思います。

日本共産党 市議会だより

発行：日本共産党熊本市議団  
ますだ牧子 上野みえこ なすまどか  
熊本市中央区手取本町1-1 3階

NO. 924  
2014年11月9日  
電話 328-2656  
FAX 359-5047

メール：kumamsu@gamma.ocn.ne.jp  
HP：http://www.jcp-kumamoto.com/

# 増え続ける市の借金3390億円「一人あたり45万6,000円」、 今後予定される大型公共投資は、MICE 施設を除き「総額520億円超」



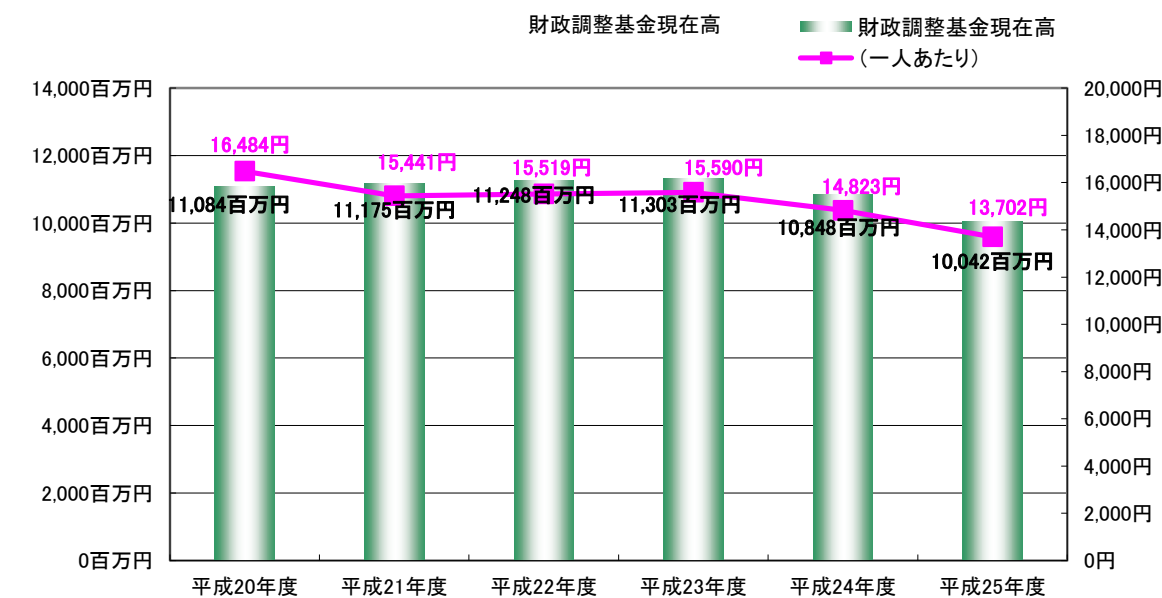
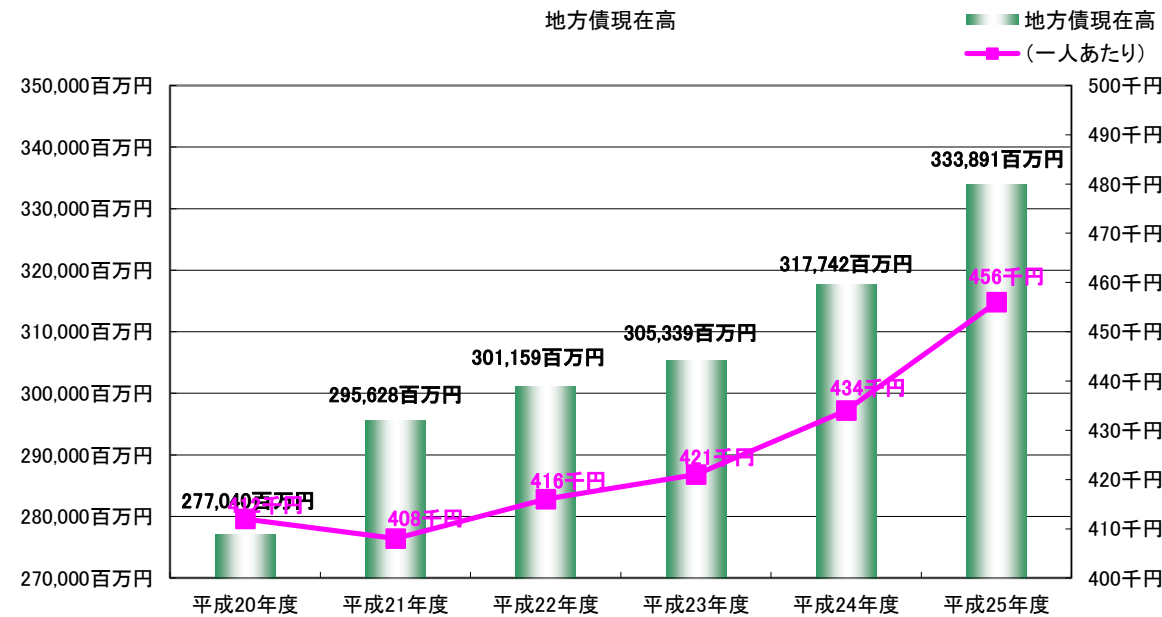
(2013年度から2020年度)

借金は増え続け、基金（貯金）は減っています

左記のグラフでもはっきりしているように、熊本市の借金残高は増え続け、一方で基金（貯金）は減っています。

現行「中期財政見通し」の始まった2013年度から2020年度までの8年間で、熊本市が予定する大型事業への投資は、MICE 整備を除いても520億円をはるかに超えます。しかも、オリンピック等の影響もあって、予定される事業費は大幅に増額されるものもあります。

MICE 施設整備は、市の借金をさらに増やすとともに、現有公共施設の維持管理費や老朽化した建物の改修など必要な公共事業に大きく影響するとともに、福祉や教育などの現行サービスの切り捨てにつながる危険もあります。MICE 整備は中止して、福祉・暮らし・教育を優先すべきです。



## <予定される大型投資事業> 総計 518 億以上

- ・防災行政無線整備 20 億円 (2014~2017 年度)
- ・新西部環境工場整備 100 億 1600 万円 (2014~2016 年度)
- ・新西部環境工場関係余熱利用施設整備 14 億円 (2016~2017 年度)
- ・植木体力健康づくり拠点施設整備 33 億円 (2014~2018 年度)
- ・熊本城復元整備 1 億 7000 万円 (2013~2014 年度)
- ・熊本駅東口広場及び連続立体交差事業負担金 73 億円以上
- ・熊本・川尻駅間新駅整備 11 億円 (2014~2015 年度)
- ・消防救急デジタル無線・北消防署整備 24 億円 (2014~2015 年度)
- ・龍田小学校分離新設校整備 30 億円 (2014~2015 年度)
- ・特別支援学校 (高等部・小中学部) 整備 58 億円 (2012~2019 年度)
- ・博物館リニューアル整備 17 億円以上 (2015~2017 年度)
- ・市民病院整備事業 136 億 4000 万円 (2013~2020 年度)

\*「以上」とあるのは、設計変更等もあり明らかに事業費が増えるもの